

■誌上発表6

1 研究主題 曲線が奏でる優雅な形体

2 提案者 葛飾区立綾瀬中学校 教諭 尾花 賢一

3 テーマと題材の関わり（題材設定の理由）

(1) 題材について 対象学年 第2学年

- ・ 粘土を用いて抽象彫刻を制作する課題である。使用する素材は石粉粘土。柔らかくて加工しやすく、乾燥後に耐水ペーパーで研磨するとなめらかな手触りになるだけでなく石質感のある仕上がりになる。さらに乾燥速度も紙粘土と比べ遅く、制作途中でのひび割れが少ないなど利点が多い。油粘土や紙粘土からさらに一步踏み込んだ素材として選択した。
- ・ 今回の題材は抽象彫刻というものの、基本となる形にはある程度制約を設けた。500gの粘土で、厚さ5ミリの板を作り、それを基に自分が考える「美しいカーブ」を表現する課題である。幅も6cm、12cm、20cmと3種類の中から選択する。これならば造形表現に苦手意識を持つ生徒でも、元となる形が設定されているため、導入部分で強い抵抗感を持たずにスムーズに課題に対し意欲を高め集中して取り組むことができると考え設定した。さらに制約がある中でも、板の幅の長さや穴を開ける位置や数を自分で決定することができるため、表現方法にも多様性を持たせることができる。同じ制約の中で生徒それぞれが創意工夫し、多彩な形体を持った作品が生まれることを期待している。

(2) 生徒について

- ・ 2学年は今年度から初めて授業を担当する。昨年度の実践例を参考にすると絵画制作が多く、粘土を用いた制作は経験していない。そのため粘土を扱うことに抵抗を持つことが予想される。
- ・ それぞれ制作への意欲を持ち合わせているものの、積極的に取り組むことに抵抗感があるようで、授業に対して受け身になってしまうことが多い。しかし一度決めた作品イメージに対しては、たとえ難しい工程であっても完成という目標に向かって最後まで努力する力を持っている。
- ・ 技術不足から表現することへの不安感も強く、それが影響して他者と自分の作品を比較してしまい、自信喪失に繋がる事や、周囲の雰囲気流されてしまう傾向がある。

4 本題材での具体的な学びと学習活動

- ・ 本題材における具体的な学びと学習活動について次のように設定した。

学び方	題材における具体的な学び	学習活動
主題や発想を創出する力	「美しい形」というテーマに沿った多彩な作品を鑑賞し、自分の中でイメージを模索し、美意識を育む。	・ ハンス・アルプ、ブランクーシ、ナウム・ガボなどの抽象彫刻の作品をスライドとシートによって鑑賞する。
粘土の可塑性を活かして成形する基礎的技能	たたら板を使用しての成形。そして、そこからできた板を曲げる、折る、穴をあける、重ねる、束ねるなどの技法を用いて自分が意図する「美しい形」を表現していく。	・ 粘土を使って表現できる形体を写真と言葉で説明したシートを配る。また、事前に厚紙を用いて形体を作り、粘土に触れる前に完成イメージを確立させる。

5 題材の目標

- 完成イメージを具体的に持ち、目標に向けて制作することができる。
- 用具や設備を正しく扱うことができる。
- 粘土の特性に親しみながら、立体表現としてのよさや曲線がもつ美しさを表すことができる。
- 立体作品の多様な表現のよさや美しさを感じ取り、味わうことができる。

6 題材の評価基準と評価基準

	題材の評価基準	評価基準
関心・意欲・態度	・抽象彫刻に関心をもち、意欲的に表現技法を身につけようとし、それを生かして積極的に制作に取り組むことができる。	・さまざまな作家の作品を鑑賞することで、抽象彫刻がもつ美しさに触れる。そして、自分の作品に生かすためにシートを活用することができる。 ・制作の工程を理解し、設備・用具を正しく扱って取り組むことができる。
発想や構想の能力	・テーマをもとに、自ら表現したい形体についてよく考え、適した表現を用いて制作することができる。	・完成イメージを確立させるために厚紙を使って完成模型をつくり、粘土制作に反映することができる。
創造的な技能	・粘土の特徴を理解し、それらを生かしながら創意工夫し、表現活動を行うことができる。	・粘土がもつ可塑性を理解し、美しい作品を表現するために適した技法を組み合わせる表現することができる。 ・耐水ペーパーや粘土べらを用いて、なめらかで、きめ細やかな質感に仕上げることができる。
鑑賞の能力	・制作者の美意識、創造的な表現の工夫などを感じ取り、そのよさや美しさを味わうことができる。	・さまざまな作家の作品に興味をもち、素材の加工方法などに着目しながら、作品のよさや美しさを文章で表現することができる。 ・友達の作品を鑑賞し、さまざまな美意識や価値観を受容することができる。

7 指導計画（全7時間）

	主な学習内容	関	発	創	鑑
1	抽象彫刻の鑑賞 スライドとシートをもとに鑑賞する。	○			○
2	作品スケッチ 元となる板の幅を決め、技法を選択する。完成模型を制作する。	○	○		
3	粘土の成形① たたら板を用いて板を制作する。	○		○	
4	粘土の成形② 模型をもとに、板を成形する。	○	○	○	
5	粘土の研磨① 作品の表面をならし、道具をつかって滑らかな仕上げにする。	○		○	
6	粘土の研磨② 作品の表面をならし、道具をつかって滑らかな仕上げにする。	○		○	
7	作品の鑑賞 シートをもとに完成した作品を鑑賞する。	○			○